二三男くんの未来日記

墨田区

暮らし続けたい、働き続けたい、訪れたい墨田区に

どこよりも素敵で魅力的なまちを目指す

大横川親水公園

「川がなくなってる……」

二三男くんは業平橋から見える景色を呆然と見ていました。

下町出身の二三男くんは、70年前、確かにここに川が流れていたことを覚えていました。江戸時代に明暦の大火をきっかけに作られた大横川という運河です。この大横川沿いにはかつて工場や倉庫が並んでいて、〝ものづくりのまち すみだ〟を象徴するエリアでした。

今、そこには緑が生い茂る親水公園があります。大横川があったことは公園の名前からしのばれますが、よく見てみると、業平橋のような昔ながらの橋が、川があった当時と同じように架けられています。かつて町工場があった川沿いには、今は集合住宅などが立ち並んでいます。また、空を見上げれば雲を突き抜けそうなほど高い塔、「東京スカイツリー」が見えます。昔のこの地域しか知らない二三男くんには想像もできない光景でした。

「墨田区がどう発展し、これからどうなろうとしているのか知りたい」

二三男くんは、墨田区役所へ向かいました。

2000年以降は転入超過

隅田川沿いに立つ墨田区役所を訪れた二三男くん。庁舎1階の総合案内で、同じフロアにある区民情報コーナーに案内してもらいました。

さっそく、二三男くんは『人口ビジョン』から読み始めました。

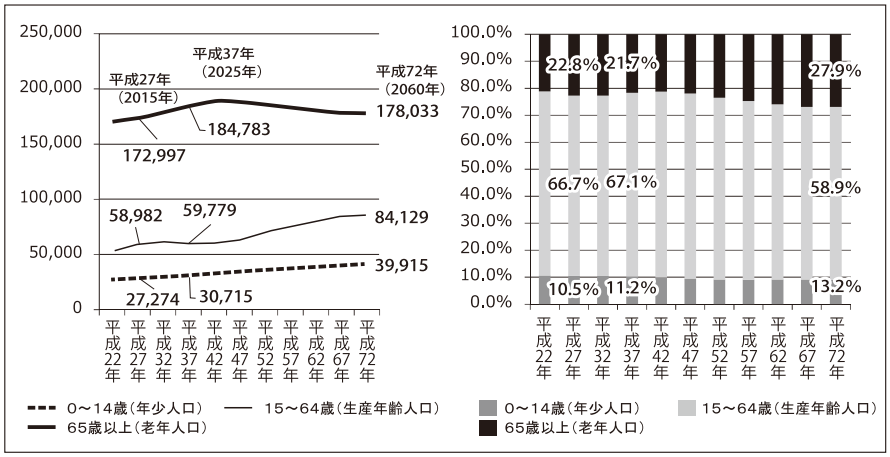
墨田区の総人口は、１９９５（平成7）年から１９９９（平成11）年にかけて若干の減少傾向にありましたが、２０００（平成12）年以降、増加に転じています。１９９５（平成7）年に外国人を含み22万２０８０人だった総人口は、２０１５（平成27）年には25万８４２３人まで増加しています。同年5月には総人口は26万人を超えました。

この20年の区の人口増加に大きな影響を与えているのは、社会動態です。１９９９（平成11）年までは転出超過もしくは転入・転出がほぼ同じ数で推移していましたが、２０００（平成12）年以降は転入超過の状態が続いています。都営大江戸線の開通（２０００年）、東京メトロ半蔵門線の延伸（２００３年）などによる交通利便性の向上や、曳舟駅周辺地区再開発の進捗をはじめとするまちづくりの推進、また、２０１２（平成24）年の東京スカイツリー開業による住宅地としての魅力向上などが要因として考えられます。

人口の将来展望

『人口ビジョン』では、こうした人口の現状分析の上に、今後の課題について、①さらなる高齢化の進行への対応②子育て世代等の転入の促進③多様な人々が暮らしやすいまちへ④若者が結婚しやすい環境づくり⑤経済価値を生みだし、生活者の利便性を支える産業の基盤づくり―の五つをあげています。

■墨田区の将来人口推計（年齢3区分別人口）



将来人口の推計では、複数の仮定に基づくシミュレーションを行っていますが、出生率として２０４０（平成52）年に東京都民が希望する出生が実現した場合の合計特殊出生率１・76まで上昇するとし、現在の社会流入が徐々に縮小していくことを想定した社会移動率を用いたパターンを見ると、総人口は徐々に増加し、２０６０（平成72）年には30万人を超えると推計しています。

その上で、人口の将来展望として、「活力ある年齢構成を維持するため、若い世代が安心して子どもを産み育てられる環境をつくります（ひとの自然増）」「若い世代を含む誰もが住み続けたい、また、住んでみたいと思える環境をつくります（ひとの社会増）」「観光等を活かした産業の活性化を図るとともに、安心して暮らし、働き続けることができる、また、働いてみたい環境をつくります（しごとやまちの力）」と示しました。

人口27万人を突破

墨田区の人口は着実に増加していて、２０１８（平成30）年４月５日には27万人を突破しました。「人口ビジョン」で２０２５（平成37）年の目標としていた27万５０００人を、前倒しで達成することが見込まれています。

ここで社会動態を詳しく見てみると20歳代が突出しており、２０１２（平成24）年から２０１３（平成25）年の平均値で見ると、20歳代ではおよそ２３５０人の転入超過となっています。特に東京圏外からの転入超過が目立ち、地方の若者が主に大学などへの進学や就職に伴って墨田区に転入していると推測されます。

一方、転出超過にあるのが０～４歳です。この年代の子どもが親とともに転出していることを考慮すると、20～40歳代のうち、ファミリー層は区外への転出傾向にあると言えます。

２０１８年４月５日に墨田区人口は27万人を突破（右は山本区長）

今後、高齢化が一層進行すると見込まれるなかで、人口構成が特定の世代に偏ることなく、様々な世代によって適切に保たれるまちであり続けるためには、子育てを行う世代等をどのように増やしていくかが課題です。

三つの基本目標

続いて、『総合戦略』を読んでみました。

『墨田区総合戦略』は、夢と希望を育む、どこよりも素敵で魅力的なまちをめざして、次の三つの基本目標で構成しています。

基本目標Ⅰ「暮らし続けたいまち」の実現では、若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえ、子どもの教育環境を整備することで、誰もが夢や希望と誇り、愛着を持てるまちをつくります。また、安全・快適に暮らせる地域をつくり、多くの人に選択され、住み続けたいと思われるまちをつくります。

基本目標Ⅱ「働き続けたいまち」の実現では、ものづくり産業や地域の特色を活かした商業・サービス業のさらなる活性化を図るとともに、

「すみだ良質な集合住宅」の認定証と制度を周知するチラシ

誰もが生きがいをもって働けるまちをつくります。

基本目標Ⅲ「訪れたいまち」の実現では、歴史や文化、観光資源など、多彩な個性や魅力によるにぎわいを創出し、多くの人々が憧れるまちをつくります。また、地方との活発な交流を通して、ともに発展するまちをつくります。

二三男くんは、具体的な施策を調べてみることにしました。

暮らし続けたいまち

最初に、「暮らし続けたいまち」を実現するための施策です。

「すみだ良質な集合住宅認定制度」は、集合住宅の居住に関する様々な機能について、ハード・ソフト両面において特に配慮された集合住宅を、「すみだ良質な集合住宅」として認定する制度です。認定された集合住宅の情報は、墨田区のウェブサイトなどで公表し、区内での住み替えにおける良質な居住環境の指針となります。

認定は、「子育て型」と「防災型」の2種類あります。「子育て型」は、子育てに配慮した機能を有し、安心して子育てができる集合住宅で、段差解消や床衝撃音対策などを必要としています。「防災型（高度防災型・その他）」は、防災や災害に配慮した機能を有し、災害発生から3日間、避難所に行かずに生活ができる集合住宅で、耐震性や、備蓄倉庫の整備などの機能が必須項目となっています。

区は認定された集合住宅の整備費を補助するほか、居住者に対しても居住者間自主活動経費を補助します。

また、子育て世帯が区内に居住する親世帯と同居または近居するため住宅を取得した場合、費用の一部を助成する「墨田区三世代同居・近居住宅取得支援制度」もあります。さらに子育て世帯が区内で民間賃貸住宅へ転居した場合、あるいは区内に居住する親世帯と同居または近居するために区内の民間賃貸住宅へ区外から転入した場合も、転居費用の一部を助成する「墨田区民間賃貸住宅転居・転入支援制度」も実施しています。

これらは現在、墨田区の人口増加を牽引する20歳代の若い人たちに、区内で結婚し、子育てし、これからも墨田区で暮らし続けてもらおうという意欲を感じる施策です。

働き続けたいまち

江戸時代から日用品や生活用品を作る職人が多く住み、「ものづくりのまち」として発展してきた墨田区。しかし、最近では、「ものづくりの

次代を担う経営者を育成する「フロンティアすみだ塾」

まち」を支えてきた町工場が減っています。１９７０年代に９８００社ほどあった町工場が、現在では２１００社ほどまで減ってしまいました。「暮らし続ける」には、働く場所が必要です。そこで、「働き続けたいまち」にも力を入れています。

墨田区や関係機関、区内中小企業経営者などで組織する「すみだ次世代経営研究協議会」では、後継者や若手経営者を対象に、私塾形式のビジネススクール「フロンティアすみだ塾」を開講し、中小企業の事業を継承し、次代を担う経営者を育成しています。

この塾では、塾生が年齢や業種を超えた仲間と切磋琢磨する中で自社の進むべき道を見極め、経営者としての第一歩を踏み出す力を培います。

訪れたいまち

10月1日から墨田区、台東区、東武鉄道株式会社、東武バス株式会社が連携した「台東・墨田　東京下町周遊きっぷ」の発行が始まりました。東武鉄道のスカイツリーライン（浅草～北千住・曳舟～押上）・亀戸線（曳舟～亀戸）、東武バスのスカイツリーシャトル上野・浅草線、墨田区内循環バス「すみだ百景　すみまるくん・すみりんちゃん」全ルート、台東区循環バス「めぐりん」全ルートに乗車でき、特典として墨田区・台東区内の美術館・博物館や店舗などで乗車券を提示すると、入館料の割引やプレゼントなどのサービスを受けることができます。

販売価格は1日券５００円、2日券７００円。

東京スカイツリー（墨田区）や浅草雷門（台東区）は日本を代表する観光スポットで、毎日、多くの観光客が訪れています。でも、彼らがせっかくスカイツリーや雷門を訪れてくれても、その地域の魅力を存分に味わっているとは限りません。これらの観光スポットを訪れた人たちがこの周遊きっぷを使って、すみだ北斎美術館や両国国技館、江戸東京博物館などがある両国地域を訪れたり、東京で数少なくなってきた風情のある銭湯でひとっ風呂浴びるなど、墨田区の魅力に触れることができれば「訪れたいまち」になるかもしれません。

台東区と墨田区を回るのに便利な「台東・墨田　東京下町周遊きっぷ」

「下町周遊きっぷ」でも乗車できる墨田区の循環バス

墨田区が好きになる

墨田区の人口が着々と増えているのは、このまちに愛着と誇りを持っている区民が増えている証拠でもあります。

二三男くんは「東京スカイツリーが開業して、墨田区の街の魅力が向上した。その魅力に惹かれて墨田区に引っ越してくれた人たちが、この街で子育てし、暮らし続け、働き続けることができるよう、墨田区が様々な仕掛けを打っていることが分かった。スカイツリーを訪れた人たちが区内のものづくり産業や伝統文化などにも触れることで、墨田区を好きになってくれたら、またここに住んでみたいという人も増えるんじゃないだろうか」と思いました。

墨田区のことを学んだ二三男くんは、この街がすっかり気に入ったようです。二三男くんは「大相撲九月場所で盛り上がった国技館は今、どうなっているんだろうか」と、「台東・墨田　東京下町周遊きっぷ」を使って、両国方面まで足を伸ばすことにしました。

取材協力／墨田区